



平成25年8月7日  
独立行政法人国立科学博物館

## 特別展「大恐竜展ーゴビ砂漠の驚異」開催のお知らせ

国立科学博物館（館長 林良博）では、平成25年10月26日(土)から平成26年2月23日(日)まで、特別展「大恐竜展ーゴビ砂漠の驚異」を開催します。

つきましては広報について格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。詳しくは、別添資料をご覧ください。

### ◆特別展「大恐竜展ーゴビ砂漠の驚異」

【会期】平成25年10月26日(土)～平成26年2月23日(日)

【会場】国立科学博物館（東京都台東区上野公園7-20）

【主催】国立科学博物館、モンゴル科学アカデミー古生物学センター、読売新聞社

#### <本件担当者>

独立行政法人 国立科学博物館  
事業推進部 企画展示課長 吉野 英男  
〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20  
TEL:03-3822-0111/FAX:03-5814-9899

#### <取材に関するお問い合わせ先>

「大恐竜展ーゴビ砂漠の驚異」広報事務局  
担当：池袋、高橋  
TEL:03-6821-9100/FAX:03-3499-0958



## 開催趣旨

この秋、国立科学博物館では「大恐竜展－ゴビ砂漠の驚異」を開催します。本展では、恐竜の系統進化、生態などの解明に大きく寄与したモンゴル・ゴビ砂漠で発掘された貴重な化石標本を公開します。

モンゴル・ゴビ砂漠は、1922年から1930年にかけて、アメリカのアンドリュース調査隊が、数々の発掘をしたことで、世界有数の恐竜化石産地として世界に知れ渡ることとなりました。ゴビ砂漠で発見される化石は、保存状態のよい良質なものが多いため、今日でも世界中の研究者を魅了し続けています。

本展は、アジア最大の肉食恐竜「タルボサウルス」、大型植物食恐竜「サウロロフス」の全身骨格など、ほとんどが非常に良質な実物化石で構成されます。また今回、ティラノサウルス類の子ども化石としては世界で最も保存状態の良いタルボサウルス（子ども）の化石を展示し、そこから読み解く肉食恐竜の成長について日本人研究者が明らかにした最新研究を紹介します。

モンゴルの実物恐竜化石が一堂に会した本展で、多くの方々が実物化石の素晴らしさに間近に触れ、恐竜についての知識はもちろんのこと、今も驚きの発見が続くゴビ砂漠での化石発掘調査について深く知っていただければ幸いです。

### －本リリースに関するお問い合わせ先－

「大恐竜展－ゴビ砂漠の驚異」広報事務局（ユース・プランニング センター内）担当／池袋・高橋

〒106-8611 東京都港区西麻布2-25-18 麻布パレスビル

TEL：03-6821-9100 FAX：03-3499-0958 E-mail：daikyoryu@ypcpr.com

## 本展のみどころ

### ① モンゴル・ゴビ砂漠の宝が一堂に！

本展は、モンゴル・ゴビ砂漠の実物恐竜化石を一堂に見ることができる、極めて貴重な機会となります。これほどの規模での公開は、モンゴル国内でもありません。また、新種の物的証拠となる標本「ホロタイプ標本」が約 10 点展示される、国際的にも稀に見る展覧会です。

### ② 希少！化石の「実物」率＝約 90%

本展で展示される標本に占める実物化石の割合は実に約 90%。ゴビ砂漠では細部までよく保存され、骨と骨がつながった状態で保存されたすばらしい標本がたくさん見つかっています。その実物の化石が持つ魅力にぜひ触れてください。

### ③ タルボサウルスの子どもの化石から考える

#### 恐竜の成長

全長 2m、推定年齢 2～3 才のタルボサウルスの子どもの実物化石やそれをもとに復元した全身骨格が展示されます。ティラノサウルス類の子どもの化石としては、世界一の保存状態だとされています。本展ではこの標本を研究することで、明らかになったティラノサウルス類の成長についての新しい知見を紹介します。

## ④ タルボサウルス、サウロロフスの

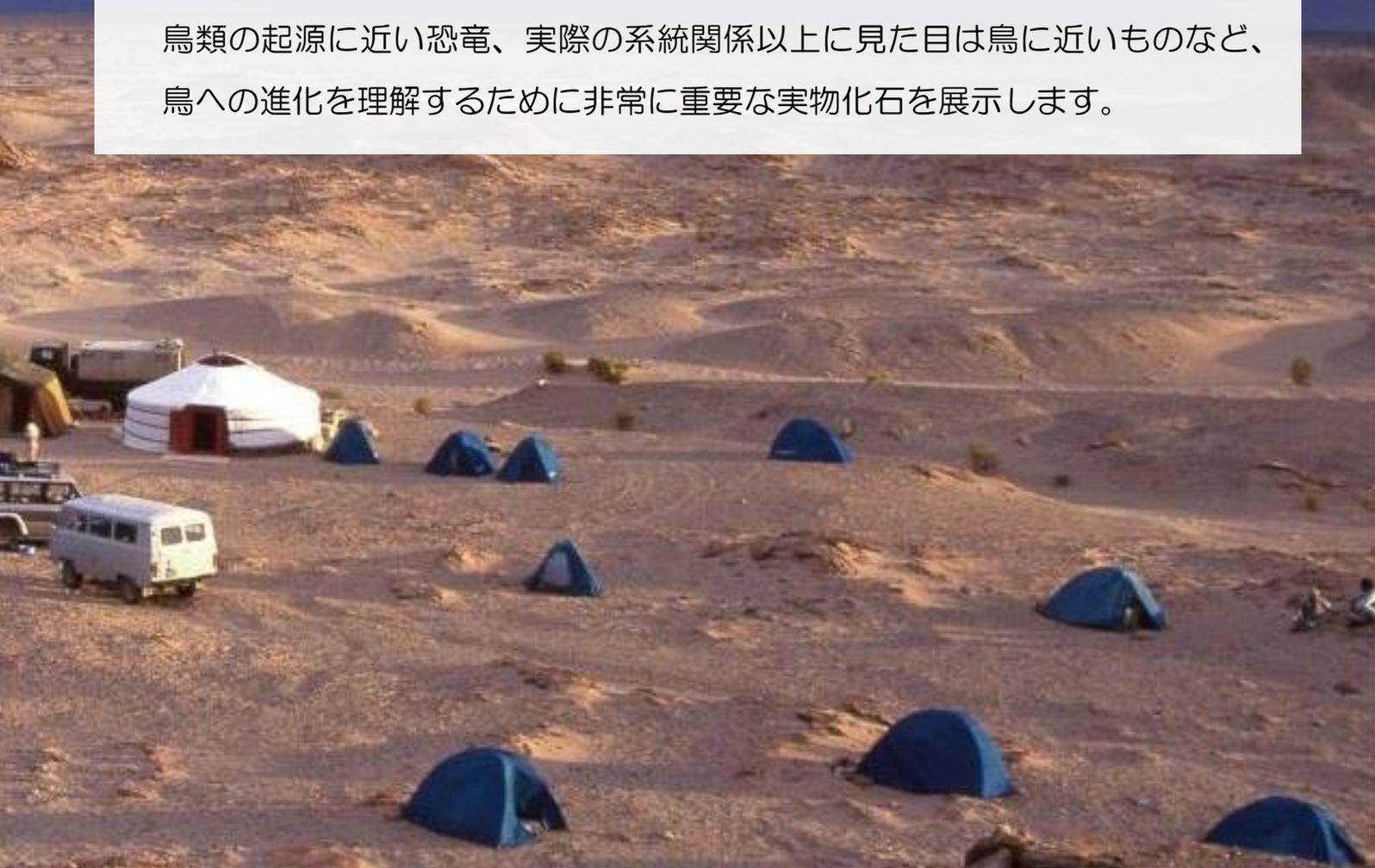
### 実物全身骨格の共演

約7000万年前に生きた大型の肉食恐竜タルボサウルスと植物食恐竜サウロロフスの骨格を展示します。その大きさはともに約10mで、実物ならではの迫力、存在感を感じていただけます。

また、タルボサウルスがサウロロフスを食べていた証拠となる標本も展示されます。さらに、この時代にはより小型の恐竜も多様でした。これらの小型恐竜も含め、ゴビ砂漠における当時の恐竜の多様性もご紹介します。

## ⑤ モンゴル化石でたどる恐竜から鳥への進化

モンゴルの白亜紀後期の地層からは、様々な獣脚類が発見されています。鳥類の起源に近い恐竜、実際の系統関係以上に見た目は鳥に近いものなど、鳥への進化を理解するために非常に重要な実物化石を展示します。



## ◆主な展示標本の紹介◆



①タルボサウルス 全身骨格



②タルボサウルス イラスト

### **アジア最大の肉食恐竜！**

### **タルボサウルス <実物化石>**

学名：*Tarbosaurus bataar*

白亜紀後期：獣脚類 ティラノサウルス類 全長：約 10m

アジアで最大の肉食恐竜です。今回展示する標本は頭骨だけで 1.2m にもなり、タルボサウルスの中でも最大級です。北アメリカから見つかるティラノサウルスに近い種で、前あしは小さく、もともとは 3 本あったはずの指も 2 本になっています。タルボサウルスの前あしのヒジから先の部分は、ティラノサウルスの仲間の中でも特に短いのが特徴です。

# 恐竜の成長の謎に迫る！

## タルボサウルス(子ども) <実物化石 ※全身骨格は複製>

学名： *Tarbosaurus bataar*

白亜紀後期： 獣脚類 ティラノサウルス類 全身骨格の全長： 約 2m

本展では、タルボサウルスの子どもの化石として、発見されているものの中で最も保存状態の良い標本を展示します。全身のほぼ70%が残っている極めて貴重な化石標本です。また、おとなのタルボサウルスとの比較にもとづき、その成長を科学します。例えばおとなのタルボサウルスはバナナ状で骨をも砕くような強力な歯をもっていますが、子どもは左右に平たい歯をもっていました。また、頑丈なおとなのあしとくらべ、ほっそりとしています。



③発掘時のタルボサウルス(子ども)の骨格

※本展では、クリーニング(化石のまわりについた岩石をとりぞく作業)された化石を展示します。



④タルボサウルス(子ども)の頭骨



⑤タルボサウルス(子ども)の全身骨格(複製)



⑥タルボサウルス(子ども)イラスト

# 白亜紀後期の大型植物食恐竜

## サウロロフス <実物化石>

学名 : *Saurolophus angustirostris*

白亜紀後期 : 鳥盤類 鳥脚類 ハドロサウルス類 全長約 11m

全長 10m を超える白亜紀後期の大型の植物食恐竜。口の先がカモのくちばしのようになっていて、その後ろに歯が上下前後にびっしりと並んだ構造を持っています。頭の後ろの突起が特徴です。同属の別種がほぼ同時期の北アメリカから見つかったことから、この時期にアジアと北アメリカの間で動物の行き来があったことが示唆されています。



⑦サウロロフス 全身骨格



⑧サウロロフス イラスト

## 貴重な赤ちゃんの集団化石

### プロトケラトプスの赤ちゃん 15 頭の集団化石 <実物化石>

#### ⑨プロトケラトプスの赤ちゃん 15 頭の集団化石

学名 : *Protoceratops andrewsi*

白亜紀後期: 鳥盤類 角竜類 ケラトプス類

植物食恐竜のプロトケラトプスは、ゴビ砂漠から成長段階の異なる化石が多数見つかり、また雌雄で頭骨の形態が異なることも示唆されています。小さくてもろい恐竜の赤ちゃんの骨が化石として保存されることはまれなのにも関わらず、この

標本は、15 頭と一緒に発見された貴重なものです。巣の中にいたものが急激に砂の中に埋もれたために、そのままの姿で化石になったと考えられています。このことからこの恐竜はある程度成長するまで巣にとどまり、親の保護や世話を受けていたのではないかと考えられています。



## 鳥類の起源に近い恐竜

### ヴェロキラプトル <実物化石>

学名 : *Velociraptor mongoliensis*

白亜紀後期: 獣脚類 マニラプトル類 ドロマエオサウルス類



⑩ヴェロキラプトル

アメリカのアンドリュース隊の発見した化石をもとに 1924 年に命名された肉食恐竜です。大きな鎌形のかぎ爪を持ち、ふだんは地面につかないように上に持ち上げられていた足の指をもっています。鳥類に近縁な系統の恐竜の代名詞的な存在です。今回、この恐竜の中でも最も保存のよい化石の一つを展示します。胴体部の中には、エサとなった翼竜の骨も残っていました。

## ■ 前売券情報

### ◆ 8月10日(土)より、 主要プレイガイドにて前売開始!

※詳細は、開催概要をご参照ください。

### ◆ 「プレミアム前売券 (ピンバッジ2個付き)」も発売!

展覧会ロゴとタルボサウルス(子ども)の頭骨を各タイメージしたピンバッジ2個が付く枚数限定のチケットも8月10日に同時発売します。

\*ローソンチケットでの取り扱い。



## ■ 開催概要

名 称 :	「大恐竜展—ゴビ砂漠の驚異」
会 場 :	2013年10月26日(土)～2014年2月23日(日)
会 期 :	国立科学博物館(東京・上野公園)
開 館 時 間 :	午前9時～午後5時 *金曜日は午後8時まで *入館は各閉館時刻の30分前まで
休 館 日 :	毎週月曜日(祝休日の場合は開館し、翌火曜日が休館。12月28日(土)～1月1日(水・祝)。ただし、12月24日(火)と1月6日(月)は開館。 *今後の諸情勢により、上記開館日、開館時間など変更する場合がありますので、ホームページ等でご確認ください。
主 催 :	国立科学博物館、モンゴル科学アカデミー古生物学センター、読売新聞社
後 援 :	文部科学省、モンゴル国大使館
協 賛 :	三越伊勢丹、ダイワボウ情報システム
特 別 協 力 :	林原自然科学博物館
入 場 料 :	◆ 一般・大学生:1,500円(1,300円) / 小・中・高校生:600円(500円) * ( )内は前売および各20名様以上の団体料金 ◆ プレミアム前売券(ピンバッジ2個付き) 2,000円 *限定1,000枚 *ローソンチケットでの取り扱い。 ◆ 金曜限定ペア得ナイト券 2,000円 2名様同時入場/男女問わず * 午後5時～午後8時/最終入場は午後7時30分 * 会場での当日販売のみ  ※ 常設展もご覧いただけます。 ※ 障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名様は無料。 ※ 前売券の販売は、8月10日(土)から10月25日(金)まで。
主なチケットの発売所 :	ローソンチケット(Lコード=33335)、チケットぴあ(Pコード=988-426) ほか主要プレイガイド。
公式オンラインチケット :	<a href="http://www.e-tix.jp/daikyoryu/">http://www.e-tix.jp/daikyoryu/</a>
お 問 合 せ :	03-5777-8600(ハローダイヤル)
公 式 H P :	<a href="http://daikyoryu.com/">http://daikyoryu.com/</a>

イラスト:月本佳代美

©Paleontological Center of Mongolian Academy of Sciences